

イベント・レポート COMDEX/Fall'96

編集部

コンピュータ業界で世界最大のトレード・ショーCOMDEX/Fall'96が、1996年11月18日から22日までの5日間、米国Las Vegasで開催されました。開催前から注目されていたWindows CE搭載ハンドヘルドPCについては、前号速報でお伝えしましたが、今回は会場で見ることのできたさまざまな話題をビジュアル的にお伝えします。ビデオ・レポートをCD-ROMに収録していますので、雰囲気をご覧ください。



最初のパーソナルコンピュータ
Altair8800.8080
が搭載されている



4004が搭載された電卓BUISICOM



ポータブルPCの移り変わり

高性能化の過程。Intelのx86系、Motorolaの68k系、のほかMicroVAXやSPARCも並んでいる



マイクロプロセッサ生誕25周年を記念した特別展示。
Intel, Motorolaをはじめとした多くのメーカーの協力によるもの。

現役マイクロプロセッサのいろいろ。
Pentium系, PowerPC系, ARM



1874年に発表されたマイクロプロセッサ。左から8080, 6800, TMS-1000

●COMDEXはパソコンだけではない

COMDEX/Fallは、PC関連の展示会として有名です。しかし2000社を超す出展のすべてがパソコン関連製品を扱っているわけではありません。ワークステーションやネットワーク・サーバなどのハイエンド・マシンから、組み込み用のマイクロコントローラやPC周辺デバイス類に至るまで、幅広い意味でのコンピュータに関する製品が展示されています。

また、コンピュータ周辺の最新テクノロジーの紹介も行われています。

●マイクロプロセッサが生まれて四半世紀

1996年はマイクロプロセッサが生まれ

てちょうど25周年目だったことを記念して、マイクロプロセッサの歴史を紹介した特設展示が行われました。IntelやMotoloraをはじめとする多くのメーカーの協力により実現したもので、過去に発売されていたさまざまなCPUやその応用製品、ソフトウェアによるコンピュータ利用の変化に至るまでがまとめられていました。

現役のCPUについては各社のブースで出展されています。ハンドヘルドPCに採用されて注目を集めた日立のSuperHは、広いスペースを使って紹介されていました。

そのほか、組み込み用のCPUを展示しているメーカーもいくつかありました。

組み込み向けでは、いまだ486クラスも現役で、小型製品向けでは8ビット品も見られました。

最近注目されているマルチメディア・プロセッサは、東芝、LG Semicon、SGS-ThomsonではMpackを、PhilipsではTriMediaを紹介していました。

高性能プロセッサ関連では、PowerPCの巨大なテント、Intelのシアターが恒例になりつつあります。

●グラフィック・アクセラレータは3次元に対応

95年秋に登場し注目を集めた3Dグラフィック・カードですが、96年にはほとんどが3D対応になりました。3Dアクセ

Super H RISC Engineの紹介デモンストレーションのようす。前方にはSHマイコンが使用された製品が並んでいる



PCに不可欠なメモリの展示



PC用のみならず組み込み用CPUの出展もあった



PhilipsのTri Media



LG SemiconのMpackデバイス

Mpackのデモンストレーション。SGS-Thomsonがショー期間中にサポートを発表



PC用マザーボードはシンクロナスDRAM対応品が目立ってきた



LG SemiconがJava Processorの紹介をしていた



ホーム・シアター方式でDVDプレイヤーをデモンストレーションしているメーカーが多いなか、チップ・セットを展示している半導体メーカーもある



QSound Labs社の3Dサウンド・デモ・ボード